

骨密度検査の前準備は？

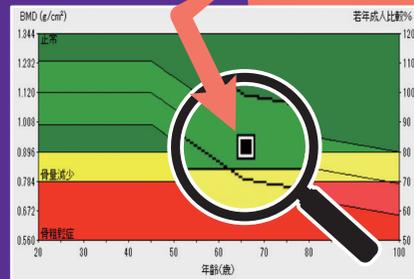
- 妊娠中、もしくは妊娠の可能性のある方は検査できません。
バリウム検査や、その他の造影剤検査の後には、骨密度検査は行えません。
- 検査時の衣服は、腰椎（おへそ周辺）や大腿骨（足の付け根周辺）に金属等（ホック、ボタン等）がついていない衣服を着用してください。また、湿布や使い捨てカイロ等は外してください。
- 測定領域（腰椎、大腿骨）に人工関節を挿入されている場合は、あらかじめスタッフに申し出てください。
- 検査は仰向けに寝て検査します。仰向けに寝られない方は、スタッフにご相談ください。
- 検査中は動かないでください。静かに呼吸することは問題ありません。

検査結果について

- 結果の評価は、日本骨粗鬆症学会等で決められており、若年成人平均値（成人男女の骨が丈夫な人たちの平均値）からどれくらい下がっているかで、評価されます。

その値は、正常は若年成人平均値の80%以上
骨量減少は、その79%から71%。
骨粗しょう症は70%以下。
と学会で決められています。

- 通常、DXA法での検査する部位としては、腰椎とどちらかの大腿骨を検査します。それらの部位で、一番低い数値で判断されます。これは、骨密度が低いところは、骨折する危険が高いということで、このように判断されます。



その症状、 骨粗しょう症 かも...

背中が**曲**がる、腰が**痛**む、
背が**縮**んできた

等の症状は**骨粗しょう症**
のサインかもしれません。

まず骨密度を 測りましょう!



あなたの骨は大丈夫ですか？

骨粗しょう症って？

骨粗しょう症というのは、骨が弱くなり、骨折の危険が高まる骨格の病気です。また、骨密度が減っていても、ほとんど自覚症状はありません。ただ骨粗しょう症がもとで骨折して初めて、痛みを感じたり、背中が曲がったり、寝たきりになったり、日常生活に支障を来し易くなります。早めの確認が必要です。



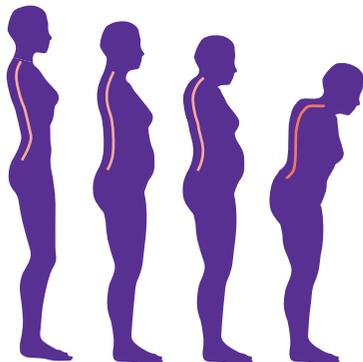
正常な骨の状態

骨粗しょう症でもろくなった骨の状態

※こちらのイラストはイメージです。実物とは異なります。

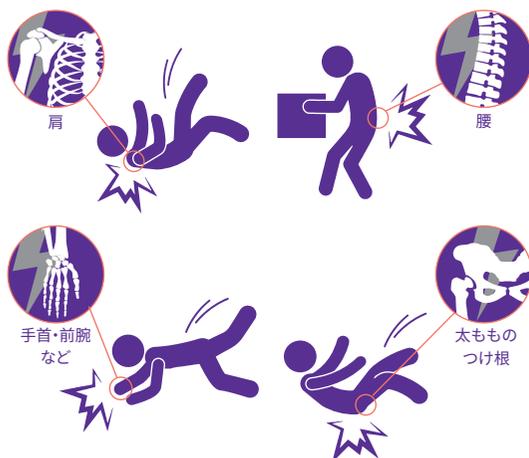
高齢と骨粗しょう症

骨粗しょう症がもとで骨折して、初めて痛みを感じたり、背中が曲がったり、更に寝たきりになったりして日常生活に支障を来し易くなります。



骨折に気を付けましょう

このような骨折は骨粗しょう症が原因かもしれません。



予防・治療できるの？

- 現在、予防・診断や治療のための技術や治療薬が進歩しています。
- 早い段階で骨密度の状態を把握することで、良い効果が上げられてきた実績があります。

どうすればいいの？

- まず、問診や骨密度測定を行い、骨密度を把握しましょう。
- 骨折すると日常生活に影響を与える腰椎や大腿骨の骨密度を測定します。
- 骨密度測定には微量のX線を用います。X線検査に準じて、ベッド上に仰向けで寝るだけです。骨密度検査で受ける被ばくは胸部エックス線検査より少ない量です。
- 測定は、約10分間で、痛みはありません。



骨密度測定装置